

9. 熊野保健福祉事務所の取組

平成21年度の取組

平成16年3月に策定した紀南地域健康づくり計画である「きなん地方計画」も策定から5年を経過したことから、これまでの取組の成果や目標達成状況を整理して中間評価を行い、今後取り組むべき重要課題と今後の展開方針を明らかにしました。21年度はそれを受けて、関係機関とともに取り組む事業の中で、計画推進に努めました。

1. きなん地方計画の推進

平成20年度に行なった中間評価結果を受け、紀南地域の健康課題である「自殺予防対策」「食育」「生活習慣病予防特に糖尿病予防対策」を重点的な取組とし、きなん地方計画を推進しました。

2. 食育の推進

(1) 紀南地域食育関係者連絡会議の開催

昨年から開催している当会議を開催し、情報交換の場としてそれぞれの分野・団体での食育の取組状況と課題などを共有しました。

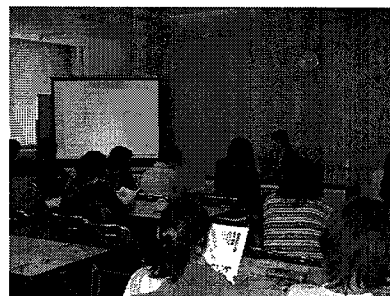
構成団体：NPO法人こどもステーションくまの、熊野食生活改善推進連絡協議会、地域栄養管理ネットワーク研究会、地産地消ネットワークみえ・熊野、熊野市・御浜町・紀宝町、熊野農林商工環境事務所、熊野保健福祉事務所

- (1) 日時 ①第1回 日時 平成21年10月5日(水) 午後
- (2) 場所 NPO法人子どもステーションくまの事務局
- (3) 内容 各団体の情報交換、事業報告、きなん地方計画目標達成にむけての話し合い等

(2) 食育研修会の開催

食育の拡がりの中で、「食べ方」への関心も高まってきました。歯科領域からの食育も重要と捉え、『歯科からみた食育』の研修会を開催しました。

- (1) 日時 平成22年3月3日(水)
- (2) 場所 県熊野庁舎 501会議室
- (3) 対象者 保育士・栄養士・調理員・NPO・市町担当者など食育の推進に関わる人材 計32名
- (4) 講師 歯科衛生士 竹田仁香氏



(3) 啓発活動

地域で開催されるイベントで、「三重のすこやか食生活指針」「食事バランスガイド」「朝ごはんを食べよう」等の啓発媒体を配布しました。また、地域の食育関係団体、NPO法人子どもステーションくまの、熊野食生活改善推進連絡協議会とともに啓発活動をすることができました。(地産地消と協働)

(4) きなん地方計画の『食育分野』の検討

平成20年度に行った中間評価結果を受け、『食育分野』の指標についての具体的な評価についての検討を熊野市・御浜町・紀宝町の保健分野の食育担当者で行いました。

3. こころの健康づくり

(1) 精神保健福祉従事者研修会

<目的>

精神保健福祉従事者を対象に、精神疾患の理解や対処方法、メンタルヘルス技法等を修得することによ

って、職場のストレス対策やメンタルヘルスの推進のために、職員等の相談技術のスキルアップを図ることを目的とした。

〈方法〉

毎年、尾鷲保健福祉事務所との共催で開催。（今年度は、尾鷲を会場）「精神保健福祉研修」「リスナー指導者研修」「職域メンタルヘルスサポーター研修」を統合し、必要な受講科目を選択制で受講できるようにした。

〈対象〉

精神保健従事者、企業の健康管理担当者、市町等

〈日程、内容、講師、受講者数〉

月 日	内 容	講 師 等	受講者数
7月15日	精神保健福祉総論	障害福祉室	2
7月29日	精神障がい者ソーシャルワーク技術	障害福祉室	4
8月26日	基礎知識の理解 専門知識の理解 (うつ病など) メンタルヘルス技法の知識と体験Ⅰ	多度あやめ病院医師 こころの健康センター	6
9月9日	専門知識の理解 (高齢者のメンタルヘルスなど)	こころの健康センター	5
9月30日	疾患の理解と対応 (統合失調症、パーソナリティ障害など)	熊野病院医師	3
10月14日	積極的傾聴の知識と体験	産業カウンセラー	4
10月30日	メンタルヘルス技法の知識と体験Ⅱ	研修・教育コンサルティング会社	2
11月17日	関連施設実習	南紀さんさんワーク	1
11月18日	メンタルヘルス技法の知識と体験Ⅲ	桔梗が丘四番町診療所臨床心理士	4

〈成果及び課題〉

今年度は、尾鷲会場での開催であったため、実人数7名、延べ人数31名の参加にとどまった。最終的には、リスナー指導者研修2名、職域メンタルヘルスサポーター養成研修3名が修了した。

昨年度と今年度の修了者が、地域のこころの健康づくり対策を検討している「くまの地域・職域連携推進懇話会」の委員になっており、今後も地域のキーパーソンとしての役割を担ってもらえるよう働きかける必要がある。

(2) こころの健康づくり事業（地域・職域連携推進懇話会）

〈目的〉

地域固有の健康課題の特定及び地域特性を生かした健康課題の解決を図るため、地域と職域が連携し、生涯を通じた継続的な保健サービスの体制を整備し、効果的な協働による健康づくり事業を推進することを目的とする。

〈目標〉

- ① 地域・職域において、身近に話を聞いてくれる人がいて、気軽に相談できる場がある。
- ② 地域・職域において、自らのこころの健康に積極的に取り組む人を増やす。
- ③ 疾病に対する偏見をなくし、正しい理解の促進を図る。
- ④ 地域・職域等関係機関が連携し、ネットワークを推進し、事業を効率的、効果的に実施する。
- ⑤ 熊野管内の自殺者を減少させる。
- ⑥ 自死遺族の集いを通じて、遺族が心穏やかに生活できる。

〈懇話会委員〉

自殺防止センター代表者、老人保健施設職員、産業保健衛生管理者、事業所人事担当者、中学校養護教諭、市町保健師

〈内容〉

- ① 懇話会の開催

開催月日	検討内容	出席者数
10月27日	① 懇話会要綱について ② 活動内容について	委員4 事務局3
1月13日	① 自殺予防講演会について	委員6 事務局3
2月11日	① くまの地域で取り組むべき課題について	委員7 事務局3 その他8*
3月16日	① 自殺予防講演会の評価 ② 次年度の活動内容について	委員7 事務局3

*その他の内訳：講演会講師、自殺防止センターボランティア、こころの健康センター所長、健康づくり室職員など

② 自殺予防講演会の開催

正しい知識の普及啓発とネットワークの構築を図ることを目的に、自殺予防講演会を開催した。

開催月日	内 容	参加者数
2月11日	「死んだらアカン！命の灯台・東尋坊からのメッセージ」 講師：茂 幸雄 氏 (NPO 法人「心に響く文集・編集局」代表理事) 川越 みさ子氏 (同 事務局長)	200名ほど

〈成果及び課題〉

今回の事業の目的は、『東紀州地域に自殺の死亡比が高いことを周知し、自殺者（未遂者）・自死遺族の現状や支援者の活動の実際を知ることで、自殺を身近な問題として捉え、当地域に必要なとりくみについて考える啓発の機会とする。』というものであった。講演会終了後の参加者アンケートの結果をみると、自死遺族の体験談や自殺防止活動に衝撃を受け、東紀州地域は自殺死亡比が高いことへの驚きの声が多かったことなどから、自殺について考えるきっかけにはなったと考える。

また、懇話会では普及啓発を中心とした一次予防対策を考えていたが、上記のアンケート結果を考慮すると、それに加え、「住民参加型生きがいサロンづくり」や「悩みを相談できる場所の確保、支援」などの地域づくりにも平行して取り組むことが必要ではないかと考える。

関係機関のネットワークの構築においては、講演会開催という共通の目標に向かって顔の見える関係づくりができたと考える。今後も事業を通して、関係機関の連携・協働を継続させると共に、現在の委員に加え、地域の精神科医師などの参画も得るようにしていく必要がある。

(3) その他

- 関係機関からの依頼により講師を務めた。

① 社会福祉協議会の依頼

開催月日	内容	対象者	出席者数
7月21日	ケアする人のケア・・・ストレスの対処法	ヘルパー	16名
7月24日	同上	同上	40名
7月29日	同上	同上	26名

② 社会福祉協議会の依頼

開催月日	内容	対象者	出席者数
9月1日	高齢者の特徴と疾患の理解	住民、民生委員、社会福祉協議会職員	29名
9月2日	傾聴とは	同上	30名

③ 熊野自殺防止センターの依頼

開催月日	内容	対象者	出席者数
------	----	-----	------

12月6日	精神疾患の基礎知識（うつ病と統合失調症の理解）	ボランティア	10名
-------	-------------------------	--------	-----

● 啓発活動

- ① 自殺予防週間（9月10日～9月16日）啓発用のぼりの掲示
- ② 研修会等での啓発用物品・ちらしの配布

4. 糖尿病予防対策

紀南地域の生活習慣病予防対策の一環として、紀南健康長寿推進協議会（紀南地域の市町が中心となり、保健医療福祉の連携プロジェクト）の中で「糖尿病予防対策」に取り組んできました。今年度は、糖尿病医療連携パス構築に向けた研修会の開催、糖尿病予防のための啓発リーフレットの作成検討を行ないました。

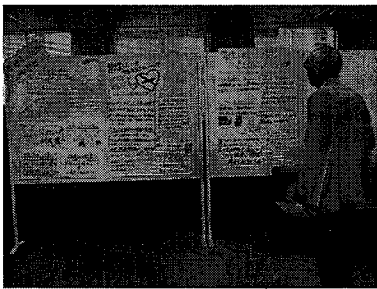
5. たばこ対策

防煙教育の実施依頼があった学校において、高校生等を対象とした防煙教育を実施しました。また、一般住民を対象として、さまざまな研修会や健康まつり等の機会にたばこに関する啓発活動を行ないました。

防煙教育 平成21年5月25日 木本高等学校 定時制1～4年生の19名教職員8名

啓発活動 平成21年6月1～5日 県熊野庁舎1階熊野県民ホールにおいて、禁煙週間に看護実習生手づくりの「煙のない健康的な社会づくり」のテーマにあった展示

平成21年11月15日 地元ばんざい展（場所：里創人熊野倶楽部）において禁煙についてのパンフレットを配布（200部）



平成21年度の成果

きなん地方計画の推進：中間評価結果を受け、管内で広域的に取り組む事業の中で、関係機関と協働して行なう取組を計画推進の一環として位置づけ、意識的に健康づくりが推進できるよう配慮しました。

食育の推進：地域の食育に携わる団体と協働で取組を行うことにより、効果的に啓発することができました。また、紀南地域の住民の「楽しい」食事とは、家族や仲間と一緒に食事をするのだと確認できました。

こころの健康づくり：精神保健福祉従事者研修会、リスナーの継続研修会および地域・職域連携推進検閲会を実施し、関係者同士、自殺予防の一環として活動していること、各々がネットワークの一員となって、少しでも、自殺者を減らす事を目指し、活動していくことを確認できました。

平成22年度の方針・実施計画

きなん地方計画の推進：引き続き、紀南健康長寿推進協議会、紀南地域母子保健医療推進協議会、地域障がい者自立支援協議会、熊野地域・職域連携推進懇話会等の場における取組の進捗管理を行い、その中でこの地域の健康課題を捉え、それに基づく健康づくりの推進を図っていきます。

食育の推進：今までに構築した食育のネットワークを生かし、様々な主体が実施する食育の取組を支援していきます。

こころの健康づくりの推進：地域・職域連携推進事業の一環として、懇話会を立ち上げ、心の健康づくりを中心に検討を重ねていく事とします。必要な人材を的確な時期に投入し、きなん地域が元気で明るい住みやすい地域になるよう事業を展開していきます。

たばこ対策：今後も機会をとらえ、防煙教育、啓発活動を展開していきます。